

兵庫 大阪 京都 埼玉 神奈川

各地で熱い激励

みんなの奮闘で 目標を貫徹せよ

事業部・加納 昭

私は、五月八日から一週間にわたり関西オルグに入り、帰ってから休む間もなく、埼玉と神奈川の労組や学校まわりを実施してきました。

オルグにまわった箇所は、ほぼ五〇ヶ所であり、明らかに統一労組懇(日共系)と思われる数ヶ所を除いてほとんどの労組や学校で質問せめや激励を受けました。

オルグに入る前は、「連合」攻撃が強まっている中であり、厳しいのは、と予想していたのですが、予想はみごとはずれ、前回冬のオルグよりも手ごたえを感じたのが印象に残っています。

オルグはなれない地で早朝から支援の仲間と一緒に歩 きまわるわけ、確かに少しづつ時もありませんが、闘う人々と接し、その人、組織の情熱や激励にあらうと疲れが吹

きとび、ドンドン自分の世界・視野が広がるのを感じてきたところです。

感想としては、動労千葉についての知名度はバツグンに高いことと、リクルート・消費税への怒りはものすごく存在しており、分割・民営化を強行した中曾根ということから、分割・民営化とは何んだったのか、という問いをおしが始まっているように思えました。

具体的反応について

◎高槻のA交通労組では「良くやっているな! 見習いたい」と多額のカンパをいただく。

◎守口市に入ったときは、各学校で職員室や各科教室にまねかれ、アピールする機会を得るなど、むしろこちらが「大丈夫な

のかなあ」と「心配」してしまいうほど、積極的受け入れのところが多かった。

◎大阪の全金B労組では、自ら争議を抱えながらも「ぜひ協力したい」と励まされる。全金関係については、関東よりも関西の方が活発化しているようであり、闘っている労組もかなり存在していた。その他、兵庫や宝塚等々、枚挙にいとまがないほど報告事項は盛りだくさんである。

◎熊谷地区労では、自ら推薦状を作成し、各労組に紹介してくれる、などなど。

全国オルグ

四分の一やりきる

八九年夏季物資販売は六月七月上旬が「決戦」です。われわれ事業部も先頭で奮闘します。

十周年記念レセプションでの
来賓の方々のごあいさつ

関西東洋委員会・永井清氏

動労千葉の十年というのは、血と汗の十年であったことをまざまざと思っておこします。関西の住民も動労千葉の闘いを心から支援し、また共に闘うことが出来たことは、何よりも嬉しく誇らしく感じるものです。

一九七七年三月の千葉市民会館で開かれた集会で私達は動労千葉の闘いを厚い人民の壁をもって守りぬこうと提起し、具体的には基金運動を始めた。それ以来、関西の住民は動労千葉の闘いを支援し、その闘いを一人でも多くの人に紹介し、資金を集めまして、少しでも動労千葉の闘いにも参加しているという思いをもっているわけです。

私達の地元では、千葉にまだ来たことのない学校の先生や住民の人たちがカンパをしてくれました。全国には多くの動労千葉支援者がいることをぜひ確認して欲しい。

関西新空港反対闘争も前進しています。これまで無視してきたマスコミも取り上げざるを得なくなっている。私達はこれからも、三里塚に学び、動労千葉に学び闘い抜いていきます。

動労千葉の十周年は、中野委員長が言われるようにこれから問われる十周年だと思えます。みなさんどうかお身体を大切に頑張ってください。

全組合員は、物販闘争の重要性を理解され、一人一万五千円達成、地区・地域への拡大のため奮闘されますよう心から訴える次第です。よろしくお願ひします。